

**DSJ2012**  
Digital Signage Japan  
デジタルサイネージ ジャパン

事前登録・最新情報はコチラ

<http://www.f2ff.jp/dsj/>

マルチスクリーン時代の  
コミュニケーションデザイン  
イノベーション

主催 デジタルサイネージ ジャパン 2012 実行委員会 運営 デジタルサイネージコンソーシアム / 株式会社ナノオプト・メディア

**INTEROP**  
TOKYO | 12 - 15 JUNE, 2012

事前登録・最新情報はコチラ

<http://www.interop.jp/>

ビジネスとテクノロジーのリーダーとユーザーが会い、  
マーケットスタンダードが生まれる、  
最先端ICTテクノロジーイベント

Discover IT  
～ICTの変動を見極める3日間～

主催 Interop Tokyo 2012 実行委員会 運営 財団法人インターネット協会 / 株式会社 ナノオプト・メディア 特別協力 WIDEプロジェクト

CONFERENCE PROGRAM GUIDE  
コンファレンスプログラムガイド

会場 幕張メッセ 会期 6月13日(水) 10:30~18:00  
6月14日(木) 10:00~18:00  
6月15日(金) 10:00~17:00

※一部コンファレンスは、12日(火)から開催しております。

CONFERENCE PROGRAM GUIDE  
コンファレンスプログラムガイド

会場 幕張メッセ 会期 6月13日(水) 10:30~18:00  
6月14日(木) 10:00~18:00  
6月15日(金) 10:00~17:00

※一部コンファレンスは、12日(火)から開催しております。

Location  
Business  
Japan 2012

スマートデバイス  
ジャパン 2012

空間と情報は融合して  
無限のカタチへ

スマートフォン・クラウドデバイスで  
ビジネスをもっと自由にする

**IMC** TOKYO  
2012  
nterop Media Convergence

事前登録・最新情報はコチラ

<http://www.imctokyo.jp/>

ポストデジタル時代突入へ  
～ワンユーザー・マルチスクリーン時代を勝ち抜くための専門イベント～

主催 IMC Tokyo 2012 実行委員会 運営 株式会社ナノオプト・メディア 運営協力 株式会社映像新聞社

事前登録・最新情報はコチラ

<http://www.f2ff.jp/lbj/>

事前登録・最新情報はコチラ

<http://www.f2ff.jp/sdj/>



ネットワーク構築に携わる方、  
企業の情報システム管理・運用に携わる方、  
幕張にお集まりください!!

全40セッションを超えるInterop Tokyoの「エデュケーショナル・コンファレンス」。  
皆様の業務範囲にあわせて7トラックに分けられた充実のラインナップが、  
貴方のスキルアップをサポートします!

## Discover IT

— Invention, Innovation and Business Partners —

プログラム委員会議長からのご挨拶

江崎 浩

Dr.Hiroshi Esaki

Interop Tokyo 2012 プログラム委員会議長  
東京大学大学院  
情報理工学系研究科 教授



復興は、復旧でも再起動でもなく、新しい社会・産業基盤を創造することです。今、日本のインターネット産業は、たくさんの難しい課題を突き付けられています。しかし、これは、成長と創造を産み出すための、神様が与えてくれたチャンスと捉えるべきでしょう。東日本大震災から、ほぼ1年を経過し、既に、復興の実現に資する成果のもと(Seeds)は、具現化の道を探し当てようとしているように思えます。東日本大震災は、単に、津波と地震の災害を受けた東北地区の被災地だけではなく、福島原子力発電所の惨事に伴う原子力発電の停止をもたらし、全国規模での電力供給能力不足という状況を我々に突き付けています。すなわち、我々は、通常の復興よりも、より厳しい過酷な条件で、復興を実現させなければならぬ状況にあるのです。

日本は、過去にも、このような、他に例を見ない過酷な状況にあっても、知恵と勇気をもって、これに挑戦し、大きな成長を実現してきました。今回も、このようなことが、実現されると信じています。このような、逆境の時にこそ、新しいイノベーションが実現されなければなりません。既に、これまでなかなか具体的な議論が行われなかったスマートメータの導入では、一気に、インターネット技術を用いたグローバルなオープンシステムの適用が真剣に議論されています。あるいは、遅々として進まなかった、クラウドシステムの導入・利用や、情報システムを Off-Premises化するデータセンタとクラウドサービスの利用は、政

府・自治体のシステムのみならず、企業においても、急速に進展しつつあります。IPv4アドレスの枯渇は、既に、既存の情報システムへ影響を出し始めており、2012年6月6日に予定されているIPv6 Launchに向けた対応は、我が国においては、いくつかの特異な環境のために、非常に大きな技術的・ビジネス的問題の解決を要求しています。世界では、「ビッグデータ」というキーワードで、膨大なデータを用いた新しいサービスの議論が行われていますが、日本では、より、現実的な問題として、東日本大震災において、各システムのデータが、分断され共有されることがなかったために、十分なサービスを提供することができなかったことが認識され、より、目的オリエンティッドなビッグデータシステムに対する要求条件を、肌身で感じる事ができた、世界で唯一の国であると考えられるでしょう。

スマートグリッド、スマートコミュニティーに関しては、特に新興国においては、節電・省エネではなく、エネルギーの需要急増に対応可能なシステムの実現を要求していますが、日本においては、エネルギー供給量の減少に対応しながら社会・産業活動の持続性成長を実現するためのイノベーションを要求しており、このように、厳しい要求条件を満足しなければ社会・産業の成長のみならず維持も困難であるという環境での問題解決法を見出す最高の機会を提供してもらっていると考えることができます。

すなわち、今回は、東日本大震災からの復興のプロセスを通じて、日本の社会インフラ全体を、少ないエネルギー消費量で実現する高効率を実現しつつ、世界が称賛した日本品質(Japan Quality)を持つ世界最高水準の耐障害性・事業継続性を持つ、リスク分散化型のインフラへと、進化させることになるでしょう。その結果、我が国の社会インフラと産業・社会システムは、世界最高水準のTHE JAPAN QUALITYへと進化し、傑出した世界競争力を持つこととなります。

Interop Tokyoは、これまで19年間にわたり、The Internetとインターネット関連産業を牽引し国内外のマーケット・スタンダードを確立してきました。今日のテーマである『Discover IT -ICTの変動を見極める3日間』は、今、市場で起こっている未だ顕在化していないIT技術・ITビジネスに関する発明(Innovation/Invention)を、発見(Discover)し、さらにビジネスを興すための発想とビジネスパートナーとの出会いの機会を提供することを目指しています。Interop Tokyoに参加される皆様には、この機会を最大限に活用していただき、最先端のICT技術の動向と現状を把握し、次のインターネット革命を生き抜くに資する、また、この国難を逆に利用し世界最高水準の社会インフラの構築に資する叡智を発見(Discover)する契機としてご利用いただければ幸いです。

## コンファレンス プログラムガイド

逐次通訳(English Speaker) 英語での講演には、逐次通訳をご用意します

※本ガイド記載情報は2012年5月25日現在のものであり、内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

### Interop Tokyo 2012 プログラム委員会

#### 議長

江崎 浩 東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授

#### ファウンダー

高橋 徹 株式会社インターネット戦略研究 代表取締役会長

#### アドバイザー

砂原 秀樹 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授 / 工学博士

近藤 邦昭 株式会社まほろば工房 代表取締役

#### アドバイザー&エディター

本林 良太 日本電気株式会社 ビジネスインキュベーション本部 マネージャー

オーリ・ジェイコブソン シスコシステムズ・インク インターネット プロトコル ジャーナル 編集長

#### プログラム委員

冲中 秀夫 KDDI 株式会社 常勤顧問 工学博士

福智 道一 ソフトバンク モバイル株式会社 プラットフォーム運用本部 副本部長

濱田 正彦 日本アイビーエム システムズ・エンジニアリング株式会社

プラットフォーム・ソリューション・センター

取締役執行役員 システムズ&テクノロジー・エバンジェリスト

株式会社データホテル 情報環境技術研究室 執行役員 CTA 室長

株式会社東芝 研究開発センター 執行役常務待遇 首席技監

シスコシステムズ合同会社 専務執行役員 ボーダレスネットワーク事業統括

日本マイクロソフト株式会社 チーフセキュリティアドバイザー

奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授

さくらインターネット株式会社 代表取締役 社長

株式会社富士通研究所 クラウドコンピューティング研究センター 主任研究員

日商エレクトロニクス株式会社

事業推進部門 技術本部 ソリューションエンジニアリング部 部長

株式会社ナノオプト・メディア 代表取締役会長 兼 社長

(順不同/敬称略)













<h1>NC-21</h1>	■データセンター
6月14日(木) 16:30~18:00	

## 対決：イーサネット・ファブリック

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>本林 良太</b> NEC ビジネスインキュベーション本部 マネージャー
<b>Speakers</b>	<b>小宮 崇博</b> ブロケード コミュニケーションズシステムズ株式会社 データセンタテクノロジー本部 部長 <b>及川 尚</b> シスコシステムズ合同会社 データセンター・パーチャライゼーション事業 プロダクトマネージャー <b>溝川 慎一</b> ジュニパーネットワークス株式会社 技術統括本部 シニアテクニカル・コンサルタント

概要	Overview
<span></span> <div>いわゆる「イーサネット・ファブリック」は、各社からソリューションが出揃い、さらに機能の拡充が進んでいる段階です。一般には優位性として、(1)レイヤ2マルチパス対策によるSTPの排除、(2)コントロールプレーンのスイッチ間共有によるパーチャルシャーシ化・ファブリック構成の自律性、(3)トポロジーの柔軟性、(4)ファブリックの自律回復による耐障害性・高可用性、(5)既存イーサネットネットワークからの継承性、(6)DCB(Data Center Bridging)やFCoE(Fibre Channel over Ethernet)によるストレージとの接続性などがうたわれています。</div>	
しかし、ベンダ固有の訴求点については不明確になりがちです。また、“マルチ”“パーチャル”“自律”に起因する、トラブルシュートの複雑化も懸念されます。そこで本セッションでは、各ベンダの唱えるソリューションについて、どう工夫しどう差異化を図ろうとしているのか？どう運用性を向上させようとしているのか？などについて、横断的に議論します。	

<h1>NC-22</h1>	■IPv4アドレス枯渇とIPv6移行
6月15日(金) 10:20~11:50	

## IPv4アドレスの枯渇に伴うアドレス移転の実態と今後の動向

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>仲西 亮子</b> IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース 三井情報株式会社
<b>Speakers</b>	<b>田中 邦裕</b> さくらインターネット株式会社 <b>川村 聖一</b> N E Cビッグロープ株式会社 <b>川端 宏生</b> 社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター IP事業部 <b>風間 勇人</b> サイバーエリアリサーチ株式会社

概要	Overview
<span></span> <div>IPv4アドレスのIANA中央在庫の枯渇に続いて、地域インターネットレジストリ(RIR)の通常在庫の枯渇も近づいています。アジア太平洋地域を管轄するAPNICでは、すでに通常在庫は枯渇し、最後の/8ブロックからのIPv4アドレスの割り振りが、分配ポリシーに基づいて始まりました。いまやアドレスの割り振り・割り当てに際しては、事実上の制限が出てきています。この影響は大きく、大量にIPアドレスを消費するクラウドサービスなどでは、サービスの提供延期などの問題も一部で起きています。このような環境の中、IPアドレスを資源として頼るサービス提供事業者では、IPv6への移行を一定の視野に入れつつも、事業継続の観点からIPv4アドレスをどうにかして手に入れ、サービスを続けていかざるを得ません。もはや、IPv4アドレスが事業継続のためのカギとなっています。</div>	
本セッションでは、枯渇状況下にあるIPv4アドレスの移転の実態に迫り、今後の動向を探っていきます。	

<h1>NC-23</h1>	■ネットワークインフラ
6月15日(金) 10:20~11:50	

## インターネットトラフィック最新状況

講師	Chair / Speaker
<b>Chair</b>	<b>永見 健一</b> 株式会社インテック
<b>Speakers</b>	<b>熊木 健二</b> KDDI株式会社 IPトランスポート技術部 IPコア技術グループ課長/グループリーダー <b>福田 健介</b> 国立情報学研究所 准教授 <b>福田 健平</b> NTTコミュニケーションズ株式会社

概要	Overview
<span></span> <div>日本ではFTTHに代表されるブロードバンドインターネットの利用者数が3,500万を超え、企業だけでなく一般家庭においても、インターネットは欠かせない情報通信インフラとなっています。また、スマートフォンの普及によりモバイルユーザのトラフィック量も増大しており、2011年9月には、月間延べトラフィック量は、下り4万5千テラバイトとなり、1年前の2倍になっています。これらのトラフィック量への対応として、モバイルキャリアにおけるWi-Fiを使ったトラフィックオフロードなど、さまざまな方法が考えられています。さらに、2012年は6月には、World IPv6 Launchとして、Google、Facebookなどの主要ウェブサイトが恒久的にIPv6対応される予定となっており、トラフィックの変化が起きる可能性があります。このようなトラフィックパターンの変化を客観的に把握するために、海外および国内のトラフィック量やトラフィック品質が測定されています。</div>	
本セッションでは、このような変わりつつある現状のインターネットのトラフィックパターンを、(1)国内の固定トラフィック、(2)国内のモバイルトラフィック、(3)海外のトラフィックについて紹介します。さらに、6月6日に実施されるWorld IPv6 Launchによるトラフィックを速報として紹介します。	

<h1>NC-24</h1>	■クラウド／パーチャライゼーション ／BigData
6月15日(金) 10:20~11:50	

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>門林 雄基</b> 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授
<b>Speakers</b>	<b>李 民浩</b> さくらインターネット株式会社 基盤戦略部バックボーンチーム <b>伊勢 幸一</b> 株式会社データホテル 情報環境技術研究室 執行役員 CTA室長 <b>武田 浩一</b> 日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 技術理事

概要	Overview
<span></span> <div>今日、インターネットやイントラネット上に日々蓄積される膨大なデータを分析・処理する「ビッグデータ」が注目を集めています。ビッグデータは、マーケティング分析の用途にとどまらず、私たちの生活の向上に貢献するさまざまなアプリケーションを可能とする新技術です。</div>	
本セッションでは、実際のビッグデータの処理、および、それをどのように価値に変えることができるのかを、事例を中心に紹介します。まず、即効性のある等身大のビッグデータ技術として、さくらインターネットにおける異常トラフィック検知への活用事例を紹介します。さらに、昨年米国TVクイズ番組に挑戦するという、極めて高度な知的処理を実現したIBMのWatsonプロジェクトをとりあげ、今後のビックデータ処理についてデータ分析の観点から討議します。	

<h1>NC-25</h1>	■ネットワークインフラ
6月15日(金) 12:50~14:20	

## DNSへの脅威とその対策

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>石田 慶樹</b> 日本インターネットエクスチェンジ株式会社 代表取締役社長
<b>Speakers</b>	<b>山本 功司</b> 株式会社インターネットイニシアティブ プロダクト本部基盤プロダクト開発部 部長 <b>松崎 吉伸</b> 株式会社インターネットイニシアティブ シニアエンジニア <b>坂口 智哉</b> 株式会社日本レジストリサービス システム部

概要	Overview
<span></span> <div>昨年、ブラジルにて大規模なISPへのDNSボイズニング攻撃が発生しました。ユーザがGmail、YouTube、Facebookなどポピュラーなサイトへアクセスしようとすると、悪意のあるサイトへ誘導され個人情報を要求されたり、TrojanBankといった危険度の高いマルウェアに感染させられたりした、重大な事件でした。また、悪意をもったドメイン名が上位のDNSから消去されても、幽霊ドメインとしてキャッシュサーバに残し続けられる手法も発見されました。</div>	
本セッションはDNS、とくにDNSキャッシュサーバへの攻撃に関して、その脅威を理解すると同時に、技術的対応策や具体的な対策プロセスについて議論します。	

<h1>NC-26</h1>	■ネットワークインフラ
6月15日(金) 12:50~14:20	

## インターネット アジアビジネスの最前線

## ~ケーブル、ネット、データセンター、クラウド~

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>石井 秀雄</b> PACNET Global Singapore PTE LTD. Product Strategy and Management Vice President
<b>Speakers</b>	<b>古田 敬</b> エクイニクス・ジャパン株式会社 代表取締役 <b>伊藤 幸夫</b> NIT コミュニケーションズ株式会社 サービス基盤部 部長 <b>鹿野 浩司</b> KDDI 株式会社

概要	Overview
<span></span> <div>情報通信システムは、インターネットの登場とともに経験した業界の変革以来の変革を、2つの理由で経験しようとしています。それは、「クラウドコンピューティングに牽引されるデータセンターを核にしたシステム構成の進化」と、「これまで日欧米の3極で構成されていた主要ビジネス領域が、アジア全域を含むものへと変化したこと」です。アジアの国々を広帯域に連結するためのケーブルシステムの敷設と、データセンターの建設、さらに、クラウドサービスと仮想化技術の導入は、企業ネットワークの設計運用を根本的に変革しつつあります。</div>	
本セッションでは、ケーブルからクラウドサービスまでについて、アジアおよびグローバル市場でビジネス展開している先端企業の最新状況と戦略を議論します。	

<h1>NC-27</h1>	■クラウド／パーチャライゼーション ／BigData
6月15日(金) 12:50~14:20	

## クラウドセキュリティ標準化動向(1)

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>門林 雄基</b> 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授
<b>Speakers</b>	<b>勝見 勉</b> 独立行政法人 情報処理推進機構 情報セキュリティ分析ラボラトリー 主任研究員 <b>松本 安英</b> 株式会社富士通研究所 クラウドコンピューティング研究センター 主任研究員 <b>宗藤 誠治</b> 日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 アドバイザリー・リサーチャー

概要	Overview
<span></span> <div>今日、クラウド環境の利活用が急速に進んでおり、オープンイノベーションや企業間コラボレーションにおける新たなプラットフォームとなっています。その一方で、セキュリティについて一定の懸念があることも事実です。</div>	
本セッションでは、クラウドセキュリティについて、世界の第一線で国際標準化に携わっている識者から講演します。クラウドセキュリティに関する世界の標準化動向を俯瞰できる2セッション構成となっています。	
(1) では特に、クラウド管理に関する標準化動向に注目し、CSA(Cloud Security Alliance )、DMTF(Distributed Management Task Force)、TCG(Trusted Computing Group)の3団体について取り上げます。	

<h1>NC-28</h1>	■クラウド／パーチャライゼーション ／BigData
6月15日(金) 14:40~16:10	

## ファブリック技術とSDNオーケストレーションの最新動向

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>伊勢 幸一</b> 株式会社データホテル 情報環境技術研究室 執行役員
<b>Speakers</b>	<b>小宮 崇博</b> ブロケード コミュニケーションズシステムズ株式会社 データセンタテクノロジー本部 部長 <b>榎本 瑞樹</b> 日商エレクトロニクス株式会社 マーケティング本部 部長

概要	Overview
<span></span> <div>今、SPBやTRILL、MC-LAGなどのファブリック技術がクラウドコンピューティングのネットワーク基盤として注目されています。しかし、IaaS上で実施される仮想マシンのプロビジョニングやマイグレーションに対し、これらファブリックネットワークのトポロジーやVLAN構成をどのように追従させ、動的に再構築するかという事が運用における重要な課題となっています。最近の傾向として、この様なファブリック上におけるIaaS基盤の運用はOpenFlowなどによる仮想ネットワークを併用して実現されますが、仮想ネットワークの運用にはSDNによるオーケストレーション技術が必要不可欠です。</div>	
本セッションは、まずベースとなるファブリック技術のプロトコルや実装を比較整理し、ユースケースや事例を踏まえ、仮想ネットワークとSDNを利用したクラウドネットワーク基盤としての具体的な適用方法、その最新動向と今後の展望を示します。	

<h1>NC-29</h1>	■クラウド／パーチャライゼーション ／BigData
6月15日(金) 16:30~18:00	

## クラウドセキュリティ標準化動向(1)

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>門林 雄基</b> 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授
<b>Speakers</b>	<b>勝見 勉</b> 独立行政法人 情報処理推進機構 情報セキュリティ分析ラボラトリー 主任研究員 <b>松本 安英</b> 株式会社富士通研究所 クラウドコンピューティング研究センター 主任研究員 <b>宗藤 誠治</b> 日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 アドバイザリー・リサーチャー

概要	Overview
<span></span> <div>今日、クラウド環境の利活用が急速に進んでおり、オープンイノベーションや企業間コラボレーションにおける新たなプラットフォームとなっています。その一方で、セキュリティについて一定の懸念があることも事実です。</div>	
本セッションでは、クラウドセキュリティについて、世界の第一線で国際標準化に携わっている識者から講演します。クラウドセキュリティに関する世界の標準化動向を俯瞰できる2セッション構成となっています。	
(1) では特に、クラウド管理に関する標準化動向に注目し、CSA(Cloud Security Alliance )、DMTF(Distributed Management Task Force)、TCG(Trusted Computing Group)の3団体について取り上げます。	

<h1>NC-30</h1>	■クラウド／パーチャライゼーション ／BigData
6月15日(金) 18:30~20:00	

<h1>NC-31</h1>	■クラウド／パーチャライゼーション ／BigData
6月15日(金) 18:30~20:00	

## クラウド環境の利活用が急速に進んでおり、オープンイノベーションや企業間コラボレーションにおける新たなプラットフォームとなっています。その一方で、セキュリティについて一定の懸念があることも事実です。

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>門林 雄基</b> 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授
<b>Speakers</b>	<b>勝見 勉</b> 独立行政法人 情報処理推進機構 情報セキュリティ分析ラボラトリー 主任研究員 <b>松本 安英</b> 株式会社富士通研究所 クラウドコンピューティング研究センター 主任研究員 <b>宗藤 誠治</b> 日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 アドバイザリー・リサーチャー

概要	Overview
<span></span> <div>今日、クラウド環境の利活用が急速に進んでおり、オープンイノベーションや企業間コラボレーションにおける新たなプラットフォームとなっています。その一方で、セキュリティについて一定の懸念があることも事実です。</div>	
本セッションでは、クラウドセキュリティについて、世界の第一線で国際標準化に携わっている識者から講演します。クラウドセキュリティに関する世界の標準化動向を俯瞰できる2セッション構成となっています。	
(1) では特に、クラウド管理に関する標準化動向に注目し、CSA(Cloud Security Alliance )、DMTF(Distributed Management Task Force)、TCG(Trusted Computing Group)の3団体について取り上げます。	

# NC-29

■ ネットワークインフラ

6月15日(金) 14:40~16:10

## 新たなネットワーク仮想化技術: L3 NWへのオーバーレイ方式

New Network Virtualization Technologies Using L3 Overlay

講師	Chair / Speakers
----	------------------

**Chair** 今井 俊宏 シスコシステムズ合同会社  
テクノロジー&リサーチセンター シニアマネージャー

**Speakers** 大久保 修一 さくらインターネット株式会社 研究所 上級研究員  
中本 滋之 シスコシステムズ合同会社  
ソリューション・システム・エンジニアリング  
システムズエンジニア

概要	Overview
----	----------

仮想データセンターからなるクラウド環境は、L2ネットワークをベースに構成する必要があることから、現状、テナント間の分離技術としてはVLANが使用されています。しかしVLANのIDは、4096セグメントまでしか対応できない制限があり、それが拡張性・柔軟性における課題として広く認識されてきました。そのため現在、「L2-VPN技術の応用」「OpenFlow」「L3ネットワークへのオーバーレイ方式」など、さまざまな方式・技術がこの課題の解決に向けて検討されています。

そこで本セッションでは、仮想データセンターのネットワークアーキテクチャを整理するとともに、IETF NVO3 (Network Virtualization over L3) で議論が進む「VXLAN」「NVGRE」などのL3ネットワークへのオーバーレイ方式・技術に焦点をあて、普及にむけた課題と、今後のネットワーク設計と運用に役立つ情報を、以下の切り口から整理します:

- ①仮想データセンターのネットワークアーキテクチャ
- ②L3ネットワークへのオーバーレイ方式解説
- ③サービス視点からの技術的課題や期待の整理

# NC-30

■ クラウド/パーチャライゼーション  
/BigData

6月15日(金) 14:40~16:10

## クラウドセキュリティ標準化動向(2)

Cloud Security Standards (2)

講師	Chair / Speakers
----	------------------

**Chair** 門林 雄基 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授

**Speakers** 崎村 夏彦 株式会社野村総合研究所  
DIソリューション事業部 上席研究員  
山崎 哲 工学院大学

概要	Overview
----	----------

今日、クラウド環境の利活用が急速に進んでおり、オープンイノベーションや企業間コラボレーションにおける新たなプラットフォームとなっています。その一方で、セキュリティについて一定の懸念があることも事実です。

本セッションでは、クラウドセキュリティについて、世界の第一線で国際標準化に携わっている識者から講演します。クラウドセキュリティに関する世界の標準化動向を俯瞰できる2セッション構成となっています。

(2)では特に、クラウド時代のアイデンティティ管理およびセキュリティマネジメントに関する標準化動向に注目し、OASIS(Organization for the Advancement of Structured Information Standards), ITU-T SG17, ISO/IEC JTC 1 SC 27 の3団体について取り上げます。

※本セッションは(1)(2)にわかれています。できれば(1)(2)を連続して受講して下さい。

# 7/19 THU 開催決定!

東京ミッドタウン

## スマートデバイス ジャパンセミナー

<http://www.f2ff.jp/sdjs/>

## Business Intelligence Conference 2012

ビジネスインテリジェンス・コンファレンス

<http://www.f2ff.jp/bic/>

## 第3回 今求められる セキュリティ対策セミナー

<http://www.f2ff.jp/iss/>

## Social Enterprise Conference 2012

ソーシャル・エンタープライズ・カンファレンス

<http://www.f2ff.jp/sec/>



# IMC TOKYO 2012

Interop Media Convergence

## ROOM 201B

P30 参照

# コンファレンスプログラムガイド

スマートTV、ソーシャル連携、最新映像技術やシステムなど、  
デジタルメディア関係者必見のプログラム

6月13日(水)	6月14日(木)	6月15日(金)
<b>IMC-01</b> 「NOTTV」番組編成からシステムの裏側まで ～世界初のモバイルスマートTVサービスを一挙紹介～(1) <small>スピーカー</small> 小牧 次郎/株式会社mmbi 常務取締役 大矢 智之/株式会社mmbi 取締役 技術統括部 セネラルマネージャー 鈴木 崇之/株式会社mmbi 技術統括部シニアマネージャー	<b>IMC-04</b> ポストデジタル化時代のコンテンツ流通政策の 最新動向とスマートTVの可能性 <small>スピーカー</small> 松本 和人/総務省 情報流通行政局情報通信作品振興課 課長補佐 元橋 圭昭/日本放送協会 経営企画局(デジタル推進) 専任部長	<b>IMC-07</b> 進化するラジオエンターテインメントモデルへの 挑戦を続けるradiko.jp <small>スピーカー</small> 青木 貴博/株式会社radiko 業務推進室長
<b>IMC-02</b> 「NOTTV」番組編成からシステムの裏側まで ～世界初のモバイルスマートTVサービスを一挙紹介～(2) <small>スピーカー</small> 北之園 展/株式会社mmbi システム統括部 シニアマネージャー 西澤 伸一/株式会社mmbi 技術統括部制作技術担当 技術統括部シニアマネージャー 袴田 直人/株式会社ジャパン・モバイルキャスト 運用技術部 オペレーションセンタ センター長	<b>IMC-05</b> Broadcast Continuity～災害・防災と放送通信の役割: 情報空白化地帯解消のための「エリア」への対応～ <small>チャプ</small> 吉井 勇/株式会社ニューメディア 月刊ニューメディア編集部 編集長 <small>スピーカー</small> 谷崎 康彦/総務省大臣官房企画課長 村上 正浩/工学院大学 建築学部まちづくり学科 准教授 博士(工学) 香取 啓志/株式会社radiko 配信技術室 室長 兼 メディアセンター長 本間 康文/株式会社TBSテレビ 技術局 担当局長 野口 高志/東日本復興支援コンソーシアム事務局 (株式会社ユースマー代表取締役)	<b>IMC-08</b> 映像符号化における高画質への取り組み (MPEG2～HEVC) <small>スピーカー</small> 池田 敏之/NEC 放送映像事業部 第三技術部 マネージャー
<b>IMC-03</b> 放送XソーシャルXマルチスクリーン:新・放送サービス最前線 <small>スピーカー</small> 前編 岡村 智之/株式会社フジテレビジョン 技術開発局 専任局長 後編 安藤 聖泰/日本テレビ放送網株式会社 編成局メディアデザインセンター メディアマネジメント部	<b>IMC-06</b> 全録化・スマート化時代で見え始めた次世代の “テレビ的存在” <small>スピーカー</small> 本田 雅一/フリーランスジャーナリスト	<b>IMC-09</b> 実践者が語る電子書籍の将来展望 ～何が壊れ、何が生まれようとしているのか～ <small>チャプ</small> 岩浪 剛太/株式会社インフォシティ 代表取締役 <small>スピーカー</small> 萩野 正昭/株式会社ポイジャー 代表取締役社長 津田 大介/ジャーナリスト

(敬称略)

※本ガイドに記載の情報は2012年5月25日現在のものであり、内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

# IMC-01

6月13日(水) 12:50~14:20

## 「NOTTV」番組編成からシステムの裏側まで

～世界初のモバイルスマートTVサービスを一挙紹介～ (1)

講師	Speakers
----	----------

**Speakers** 小牧 次郎 株式会社 mmbi 常務取締役  
大矢 智之 株式会社 mmbi 取締役 技術統括部 セネラルマネージャー  
鈴木 崇之 株式会社 mmbi 技術統括部 シニアマネージャー

概要	Overview
----	----------

4月1日、世界初のモバイルスマートTVである、NOTTVが開局しました。ライブ、SNS連携番組や蓄積型のサービスなど、本格的な放送・通信連携サービスの形となります。また、NOTTVのサービスを支えるシステムには収録から送出までファイルベースシステムやXiを使った中継技術などをはじめ、随所に最先端技術が導入されています。今回は2セッションにわたり、各部門の担当者をお招きし、NOTTVのシステム面から番組サービス面において紹介していきます。

# IMC-02

6月13日(水) 14:40~16:10

## 「NOTTV」番組編成からシステムの裏側まで

～世界初のモバイルスマートTVサービスを一挙紹介～ (2)

講師	Speakers
----	----------

**Speakers** 北之園 展 株式会社mmbi システム統括部 シニアマネージャー  
西澤 伸一 株式会社mmbi 技術統括部制作技術担当 技術統括部シニアマネージャー  
袴田 直人 株式会社ジャパン・モバイルキャスト  
運用技術部 オペレーションセンタ センター長

概要	Overview
----	----------

4月1日、世界初のモバイルスマートTVである、NOTTVが開局しました。ライブ、SNS連携番組や蓄積型のサービスなど、本格的な放送・通信連携サービスの形となります。また、NOTTVのサービスを支えるシステムには収録から送出までファイルベースシステムやXiを使った中継技術などをはじめ、随所に最先端技術が導入されています。今回は2セッションにわたり、各部門の担当者をお招きし、NOTTVのシステム面から番組サービス面において紹介していきます。

# IMC-03

6月13日(水) 16:30~18:00

## 放送XソーシャルXマルチスクリーン

## ：新・放送サービス最前線

講師	Speakers
<p><b>Speakers</b></p> <p><b>前編</b> 岡村 智之 株式会社フジテレビジョン 技術開発局 専任局長</p>	
<b>後編</b> 安藤 聖泰 日本テレビ放送網株式会社 編成局メディアデザインセンター メディアマネジメント部	

概要	Overview
----	----------

**前編** マルチスクリーン時代の放送同期型コンテンツ提供

～テレコアプリとサービス～

マルチスクリーン時代にテレビを一緒に見てくれるテレビコンパニオンサービスが注目を浴びている。既存のテレビとタブレット、スマホで実現できる放送同期型の「テレコアプリ」について、そのサービスと将来を語る。

**後編** 放送とFacebookが連携した新サービス「JoiNTV(ジョインティービー)」

～放送と通信連携。ソーシャルテレビ視聴の新しい方向性～

JoiNTV は、従来の地上デジタルテレビをインターネットに接続するだけで、テレビ画面と同じ番組を見ているFacebook上の友人が表示されたり、気になったシーンでリモコンボタンを押すだけで情報がシェアされたりクリッピングできる新しいソーシャルテレビ視聴サービスである。ソーシャル視聴と言えばハッシュタグによるTwitter連携を示すことが多い。一部の人間が情報発信し多くの視聴者が番組を視聴する時代から、誰もが自由に発言できるように変化したはずだが、実は発言しているのは全視聴者からみると、ほんのわずかな人であり、一部の情報発信者と大多数の情報閲覧者という構図自体は変わらない。ただ公の場で情報発信しない人々も自身を中心とした小さなコミュニティでは発言しコミュニケーションを取る。JoiNTVが目指したのは、その小さなコミュニティを大量に作ることにある。Facebookと連携したのもそのためである。

|--|

# IMC-04

6月14日(木) 12:50~14:20

## “テレビ的”存在― 全録化・スマート化時代で見え始めた次世代の“テレビ的存在”

## ポストデジタル化時代のコンテンツ流通政策の

## 最新動向とスマートTVの可能性

講師	Speakers
<p><b>Speakers</b></p> <p>松本 和人 総務省 情報流通行政局情報通信作品振興課 課長補佐</p> <p>元橋 圭哉 日本放送協会 経営企画局(デジタル推進) 専任部長</p>	

概要	Overview
----	----------

2012年3月31日、いよいよ東北地方(の被災三県で)もアナログ放送が終了し、ポストデジタル化時代へ突入しました。また、スマートフォンやタブレットなど一人のユーザーが複数の「画面」を保有し、電波やIPネットワークなど様々な流通経路を通して多様なコンテンツを活用するフェーズに入っています。

本セッションでは、技術進展や情報通信ネットワークの完全デジタル化等に対応した今後のコンテンツ政策の方向性、コンテンツの重点戦略の概要と今後の展開と昨今新しいテレビの視聴体験モデルとして注目度が高いスマートTVに関する取り組みについてご紹介していきます。

第一部：ポストデジタル化/マルチデバイス化時代におけるコンテンツ流通政策について
--

第二部：NHKにおけるスマートTVにおける取り組みについて(仮)

|--|

# IMC-05

6月14日(木) 14:40~16:10

## Broadcast Continuity

～災害・防災と放送通信の役割：

情報空白化地帯解消のための「エリア」への対応～

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p>吉井 勇 株式会社ニューメディア 月刊ニューメディア編集部 編集長</p>	
<b>Speakers</b>	
谷脇 康彦	総務省大臣官房企画課長
村上 正浩	工学院大学 建築学部まちづくり学科 准教授 博士(工学)
香取 啓志	株式会社radiko 配信技術室 室長 兼 メディアセンター長
	慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究所 研究員
	株式会社TBSテレビ 技術局 担当局長
	東日本復興支援コンソーシアム事務局(株式会社ヨーズマ 代表取締役)

概要	Overview
----	----------

2011年3月11日に起こった東日本大震災において、放送や通信サービスが人々のコミュニケーションや情報収集経路として大きな役割を果たした一方で、制度、技術、情報の正確性など、数々の新たな課題や役割も浮き上がってきました。例えば前回の震災時に情報過疎化した地域は数日間状況把握が困難となったことから、情報空白化を未然に防ぐための「地域：エリア」にもとづいた社会情報インフラをどの様に構築し、放送と通信が補完関係を持てるかということがあります。また、メディアが情報を伝える・共有するという役割を担う一方で、放送通信インフラを防災活動にどのように活用できるか？という可能性にも期待が高まります。

今回のセッションでは、災害が起きる前段階の備えと災害が起きた後の対応としてどのようなことが出来るか？そして広いエリアの放送・通信サービスがカバーしきれない部分を放送通信技術が今後どのような対応が求められるか？などといった今後の防災における放送通信の役割を再整理し、事例、技術、法制度について議論していきます。

|--|

# IMC-06

6月14日(木) 16:30~18:00

|--|

## 全録化・スマート化時代で見え始めた次世代の“テレビ的存在”

講師	Speaker
<p><b>Speaker</b></p> <p>本田 雅一 フリーランスジャーナリスト</p>	

概要	Overview
----	----------

“スマートTV”という言葉の普及が先行する中、スマートTVの実態はあまり知られていません。スマートTVとは何なのか？そのマインドセットを合わせ、従来のインターネットに接続されたテレビとの違いが何なのか、ビジネスモデル、ユーザーモデルの変化は何なのか。技術、マーケティング、利用者視線、あらゆる視点でのスマートテレビについて考えてみましょう。

一方で話題になっているのが全チャンネル録画。いわゆる“全録”機能です。こちらもまた、ネットワーク機能と融合し、テレビ放送の体験を大きく変えようとしています。しかし全録という切り口からもまた、テレビ業界全体のビジネスモデルやマインドセットを変えていく必要が出てきます。

デジタル化されたコンテンツ流通の世界観、ルールが変化する中、世の中で何が起きているのか。“テレビ”ではなく、“テレビ的な存在”が何に移り変わっていくのかを模索し、新しいビジネスの方向を指し示す。

|--|

# IMC-07

6月15日(金) 10:20~11:50

## 進化するラジオエンターテインメントモデルへの

## 挑戦を続けるradiko.jp

講師	Speaker
<p><b>Speaker</b></p> <p>青木 貴博 株式会社radiko 業務推進室長</p>	

概要	Overview
----	----------

2010年3月15日、在京7局・在阪6局にて実用化試験配信を開始してから約2年、参加放送局は65局、サービスエリアは全47都道府県へと拡大(2012年4月2日現在)、月間ユニークユーザー数も780万人(2012年1月)に達し、当初の目的であります、難聴取エリアの解消、ラジオの聴取機会拡大、若年層対策へ、徐々に貢献しはじめています。また、今後はSYNCRO AD(シンクロアド)と呼ばれる番組と連動した広告や販促につなぐといったビジネスモデル面にも挑戦をしていきます。今後ますます加速していくであろう、スマートフォンやタブレット端末の普及に伴うワンユーザーマルチデバイス化の動きなどで、ユーザーの視聴体験も大きく変わってきています。そのような環境変化においてネットと連携したラジオエンターテインメントモデルの現状と今後の取り組みをお話いたします。

|--|

|--|

|--|

|--|

# IMC-08

6月15日(金) 12:50~14:20

|--|

## 映像符号化における高画質への取り組み

(MPEG2 ～ HEVC)

Approach to developing high-quality video codec : from MPEG-2 to HEVC

講師	Speaker
<p><b>Speaker</b></p> <p>池田 敏之 NEC 放送映像事業部 第三技術部 マネージャー</p>	

概要	Overview
----	----------

2011年7月の地デジ移行に象徴されるように、近年あらゆる映像配信の場においてデジタル化、素材のハイビジョン化が急速に進んでおり、その膨大な情報量を効率良く圧縮伝送するコーデックは必要不可欠なコンポーネントとなっている。そのコーデックの圧縮方式はMPEG-2からH.264/AVC方式、更に2013年FDIS(Final DraftInternational Standard)予定のHEVC方式と、従来比2倍の圧縮性能で進歩している。これにより更なる高画質化や2k、4kなどの超高精細データの高效率圧縮化が可能となり、今後更にサービス拡大や高度化が進むものと考えられる。当社はこれまで高画質、高効率符号化性能を備えたMPEG-2およびH.264/AVCコーデック製品開発を行ってきた。ここではこれまでの製品開発事例および、今後のHEVCを含めた製品ラインナップ拡充への取り組みについて紹介する。

|--|

# IMC-09

6月15日(金) 14:40~16:10

## 実践者が語る電子書籍の将来展望

～何が壊れ、何が生まれようとしているのか～

講師	Chair / Speakers
<p><b>Chair</b></p> <p>岩浪 剛太 株式会社インフォシティ 代表取締役</p>	
<b>Speakers</b>	
萩野 正昭	株式会社 ボイジャー 代表取締役
津田 大介	ジャーナリスト

概要	Overview
----	----------

電子書籍分野はApple、Google、Amazonなどの動向によって一気にその様相を変えつつあります。

市場拡大に先んじて電子書籍論議も活発に行われていますが、このセミナーでは電子書籍のこれまでの経緯から将来展望まで、「実践者」であるボイジャー萩野正昭とジャーリスト津田大介の両氏とともに、最新EPUB電子書籍ソリューションのデモも含めて、リアルな電子書籍論議を行います。

また、ソーシャルメディア等が一般化するに至り、完全に「ユーザーの時代」が到来しています。その中で、今、何が壊れ、何が生まれようとしているのか？海外の巨大プラットフォームからの攻勢で日本のビジネスはどうなっていくのか？

電子書籍市場の変化から予測されるメディア全体の未来についても論議を行います。

|--|

|--|

|--|

|--|

|--|

|--|

|--|

|--|

|--|

実行委員長	
-------	--

<b>上瀬 千春</b>	株式会社フジテレビジョン 執行役員常務技師長
--------------	------------------------

実行委員	
------	--

<b>元橋 圭哉</b>	日本放送協会 経営企画局(デジタル推進) 専任部長
--------------	---------------------------

<b>佐藤 誠</b>	日本テレビ放送網株式会社 技術統括局技術戦略センター/ 技術開発部 上席主任研究員
-------------	---

<b>分根 秀和</b>	株式会社テレビ朝日 技術局 次長
--------------	------------------

<b>杉田 謙二</b>	株式会社TBSテレビ メディアビジネス局 担当局長
--------------	---------------------------

<b>香取 啓志</b>	株式会社radiko 配信技術室 室長 兼 メディアセンター長/ 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究所 研究員
--------------	--

<b>信井 文寿</b>	株式会社映像新聞社 代表取締役社長
--------------	-------------------

# LBJ-09

6月15日(金) 14:40~16:10

## 本格化するWi-Fiベースの屋内ロケーションサービスビジネス

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>砂原 秀樹</b> 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授
<b>Speakers</b>	<b>木下 泰三</b> 株式会社日立製作所 情報・通信システム社 ワイヤレスインフォ統括本部 統括本部長
	<b>那須 俊宗</b> マルティスープ株式会社 代表取締役
	<b>塩野崎 敦</b> クウジツ株式会社 取締役CTO

概要	Overview
<p>無線 LAN の基地局からの信号を活用した屋内ロケーションサービスは、スマートフォン等にも基本機能として取り入れられ基盤機能としての準備が整っています。これらを活用し、さまざまなロケーションサービスビジネスが広く展開が始まっており、今後ロケーションサービスビジネスの中核をなすと考えられます。本セッションでは、WiFi ベースの屋内ロケーションサービスの現状をまとめるとともに、戦略的なサービス基盤の展開、さらには WiFi ベースのロケーションサービスを中核としたサービスビジネスの動向について展望します。</p>	



ロケーションビジネス ジャパン 実行委員会
実行委員長
<b>神武 直彦</b> 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授
実行委員
<b>柴崎 亮介</b> 東京大学 空間情報科学研究センター長・教授
<b>砂原 秀樹</b> 慶應義塾大学院 メディアデザイン研究科 教授
<b>春山 真一郎</b> 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授
<b>坂下 哲也</b> 一般財団法人 日本情報経済社会推進協会 電子情報利活用推進部 次長
<b>石井 真</b> 測位衛星技術株式会社 取締役
<b>塩野崎 敦</b> クウジツ株式会社 取締役 CTO

# LBJ-07

6月15日(金) 10:20~11:50

## ロケーションベースドサービス最前線

～ Beyond the Checkin ～

講師	Speaker
<b>Chair</b>	<b>関 治之</b> Georepublic Japan CEO ジオメディアサミット主催
<b>Speakers</b>	<b>福島 啓吾</b> 東京急行電鉄株式会社 都市開発事業本部 事業統括部 企画開発部 企画担当
	<b>安藤 拓道</b> Compath Me Inc. CEO
	<b>鈴木 まなみ</b> フリーランス Webプロデューサー

概要	Overview
<p>近年、スマートフォンとソーシャルメディアの普及により、位置情報メディアのビジネスモデルは目覚ましい変化を続けています。ロケーション情報を利用したメディアは数えきれないほど登場しておりますが、特に「チェックイン」の概念の登場は業界にインパクトを与えました。しかしながらチェックインサービスも普及度ではまだ今ひとつの状況です。可能性は大きいがキラーアプリケーションが無いという状況の中、次は何が来るのでしょうか。本セッションでは Beyond the Checkin と題して、ロケーションベースドサービスの最前線で活躍するメンバーがプレゼンテーションいたします。</p>	



# LBJ-08

6月13日(水) 12:50~14:20

## ビジネスユースとしての地図コンテンツの選び方 How to Choose the Map Service for Business

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>古橋 大地</b> マップコンシェルジュ株式会社 代表取締役 一般社団法人オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン 副理事長
<b>Speakers</b>	<b>村田 岳彦</b> ヤフー株式会社 メディア事業統括本部 地域サービス本部 本部長

概要	Overview
<p>Google Mapsが登場してから7年、地図情報はなくてはならないオンラインサービスのひとつにまで成長しました。店舗情報や公共施設検索、乗り換え案内やルート 検索、データマイニングやエンターテイメントなど、さまざまな用途で応用されています。とくに、昨今のスマートフォンやタブレット隆盛となった状況でさらに顕著となっており、次の目的地への案内を紙に印刷しなくても、モバイル端末上で完結するのが当たり前になってきました。一方でビジネスとして地図を利用 する場合に、それまで商用目的でも無料で提供されてきたGoogle Maps APIの一部有料化にともない、ビジネスユースに最適な地図API及びコンテンツの選択肢が広がっています。とくに、OpenStreetMap(OSM)の採用は2012年に入ってから顕著であり、2月には大手チェックインサービスのFoursquare、3月には AppleやYahoo!JAPANが相次いでビジネスユースとしてOSMの利用を開始しています。本セッションではその動向と今後の地図コンテンツの方向性について意見を交わします。</p>	



# LBJ-05

6月14日(木) 14:40~16:10

## 新しいアイデアの発想とそのビジネス展開

～ AR (Augmented Reality) などの新しいアイデアからのビジネス展開～

講師	Chair / Speaker
<b>Chair</b>	<b>砂原 秀樹</b> 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授
<b>Speaker</b>	<b>暦本 純一</b> 東京大学大学院情報学環 教授

概要	Overview
<p>位置情報、Virtual Reality, Augmented Reality など、デジタル情報基盤が進化するにつれ、新しいアイデアが生み出されそれに基づくビジネスが展開されていきます。このセッションでは、このような新しいアイデアを発想するところからスタートし、それを社会に適用可能なサービスとしてビジネス展開していくまでを考察します。その実例として、AR だけでなく非常に早い時期に WiFi ロケーションサービスをビジネスとして推し進めている東京大学大学院情報学環暦本純一教授が、新しい発想を生み出し実際のサービスとして社会へ適用していくための考え方と今後の展開について紹介します。</p>	



# LBJ-06

6月14日(木) 16:30~18:00

## IMES: 衛星測位による屋内測位技術 Indoor Location by IMES based on Satellite Navigation Technology

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>神武 直彦</b> 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科准教授
<b>Speakers</b>	<b>小暮 聡</b> 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙利用ミッション本部衛星利用推進センター ミッションマネージャ
	<b>石井 真</b> 測位衛星技術株式会社 取締役
	<b>寺西 孝一郎</b> ソニー株式会社 半導体事業本部 アナログLSI事業部 コミュニケーションLSI製品部 システム設計マネジャー
	<b>藍原 雅一</b> 自治医科大学 地域医療学センター地域医療情報学部門 講師

概要	Overview
<p>携帯電話やスマートフォンにおいて、GPS測位は標準機能となり、O2O(オンライン・ツー・オフライン)といった位置情報を基軸としたバーチャルとリアルを融合した市場が急速に拡大しています。また、いままで米国のGPSのみだった衛星測位システムも日本の準天頂衛星が打ち上げられ、さらに揚州のガリレオやロシアのGLONASS,中国のコンパスなどの衛星測位システムも稼働してくるといった状況で、ますます衛星測位の利便性や性能が向上することになるでしょう。</p> <p>一方、衛星測位の唯一の欠点とも言える屋内測位は、大きな課題としてクローズアップされており、日本からGPS信号を使って、そのまま屋内でも測位できるIMES (Indoor Messaging System)が開発され、実用段階に入ってきました。</p> <p>そこで本セッションでは、衛星測位の現状を紹介し、衛星測位の屋内測位技術であるIMES技術の紹介していきます。屋内測位における特徴、課題を送信機、受信機を当事者からのプレゼンテーションといった形でリレーし、最後にIMES測位を重要な位置情報として利用する医療現場からの話につなげます。</p>	



# LBJ-03

6月13日(水) 16:30~18:00

## ビッグデータが拓くロケーションベースマーケティング

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>鈴木 良介</b> 株式会社野村総合研究所 ICT・メディアコンサルティング部 主任コンサルタント
<b>Speakers</b>	<b>丸田 哲也</b> 株式会社野村総合研究所 社会システムコンサルティング部 上級コンサルタント
	<b>本田 謙</b> フリークアウト 代表取締役社長

概要	Overview
<p>本セッションでは、フィジカル領域におけるビッグデータ活用の可能性を、マーケティング分野の先鋭事例分析を通じて紹介します。ビッグデータの活用はGoogle, Amazon, Facebookに代表されるインターネットサービスを中心に進展してきました。今後は、サイバー・フィジカル融合サービスの登場や、サイバー領域でつちかった手法をフィジカル領域へと転用することが予想されます。フィジカル領域では事象をデータに変換するための負荷が大きく、そのことがデータ活用上の障壁となっていました。近年のセンサの高度化・低価格化や、通信機能をそなえた機器の増加により、その障壁は取り払われつつあるためです。</p> <p>本セッションでは、すでに実現されている『インターネット広告配信の高度化』、『店舗におけるリアルタイムマーケティング』、『先鋭的なロケーションベース ドサービス』、『位置データを用いたプライシング高度化』などを紹介し、フィジカル領域におけるビッグデータの中心である位置データの活用可能性を再確認します。</p>	



# LBJ-04

6月14日(木) 12:50~14:20

## 実用化をむかえる可視光通信をもちいた位置サービス Location-based Services Using Visible Light Communication

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>春山 真一郎</b> 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授
<b>Speakers</b>	<b>近藤 陽介</b> パナソニック株式会社 エコソリユーションズ社 まるごとソリューションズ本部 参事
	<b>飯塚 宣男</b> カシオ計算機株式会社 研究開発センター 室長
	<b>中島 円</b> 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 春山研究室/技術センター 後期博士課程 国際航業株式会社

概要	Overview
<p>近年、可視光LEDは、照明器具、交通信号機、ディスプレイなどの光源として急速に普及しつつあります。とくにLED照明は現在急速に普及しつつありその光に位置情報を乗せることで屋内外のユビキタスな位置ビーコンとしてもちいることができます。</p> <p>パナソニック株式会社エコソリユーションズ社の近藤陽介氏からは、屋内のLED照明を用いたナビゲーション等のサービスについてご紹介します。また、可視光はスマートフォンのカメラでも検出することができるため、撮影された画像にLED光源に乗った情報を重ねることができます。カシオ計算機株式会社の飯塚宣男様からは、スマートフォンのカメラを用いた新しい応用についてご紹介します。さらに、慶應義塾大学の 中島円氏からは、屋内の経路案内を特に必要としている視覚障害者のためのナビゲーションシステム、および屋内の詳細な経路やフロアプランの作成方法についてご紹介します。</p>	

# コンファレンスプログラムガイド

「最新技術」と、「サービスと表現」、「プライバシー」など、広がるロケーションビジネスへの期待と懸念を共有し、すべての解決策を一望するプログラム

6月13日(水)	6月14日(木)	6月15日(金)
<b>LBJ-01</b> <b>ロケーションビジネスにおける プライバシーの考え方</b> <small>12:50</small>   <small>14:20</small> <b> Chair</b> 坂下 哲也 / 一般財団法人 日本情報経済社会推進協会(IPDEC) 電子情報利活用推進部 次長 <b>スピーカー</b> 高崎 晴夫 / 株式会社KDDI総研 取締役 クロサカ タツヤ / 株式会社 代表取締役	<b>LBJ-04</b> <b>実用化をむかえる可視光通信を もちいた位置サービス</b> <small>12:50</small>   <small>14:20</small> <b> Chair</b> 香山 真一郎 / 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授 <b>スピーカー</b> 近藤 陽介 / パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 まるごとソリューションズ本部 参事 飯塚 宜男 / カシオ計算機株式会社 研究開発センター 室長 中島 円 / 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 香山研究室/技術センター 後期博士課程 国際航業株式会社	<b>LBJ-07</b> <b>ロケーションベースサービス最前線 ~Beyond the Checkin~</b> <small>10:20</small>   <small>11:50</small> <b> Chair</b> 関 治之 / Georepublic Japan CEO ジオメディアサミット主催 <b>スピーカー</b> 福島 啓吾 / 東京急行電鉄株式会社 都市開発事業本部 事業統括部 企画開発部 企画担当 安藤 拓道 / Compath Me Inc. CEO 鈴木 まなみ / フリーランス Webプロデューサー
<b>LBJ-02</b> <b>ロケーションビジネス基盤として の位置情報表現と標準化</b> <small>14:40</small>   <small>16:10</small> <b> Chair</b> 坂下 哲也 / 一般財団法人 日本情報経済社会推進協会(IPDEC) 電子情報利活用推進部 次長 <b>スピーカー</b> 高橋 陽一 / インディゴ株式会社 シームレス空間基盤研究開発センター センター長 足達 嘉信 / セコム I S 研究所 ビルディングテクノロジーグループ 主務研究員	<b>LBJ-05</b> <b>新しいアイデアの発想と そのビジネス展開 ~AR (Augmented Reality)などの 新しいアイデアからのビジネス展開~</b> <small>14:40</small>   <small>16:10</small> <b> Chair</b> 砂原 秀樹 / 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授 <b>スピーカー</b> 厩本 純一 / 東京大学大学院情報学環 教授	<b>LBJ-08</b> <b>ビジネスユースとしての 地図コンテンツの選び方</b> <small>12:50</small>   <small>14:20</small> <b> Chair</b> 古橋 大地 / マップコンシェルジュ株式会社 代表取締役 一般社団法人オープンストリートマップ・ファンデーション・ジャパン 副理事長 <b>スピーカー</b> 村田 岳彦 / ヤフー株式会社 メディア事業統括本部 地域サービス本部 本部長
<b>LBJ-03</b> <b>ビッグデータが拓く ロケーションベースマーケティング</b> <small>16:30</small>   <small>18:00</small> <b> Chair</b> 鈴木 良介 / 株式会社野村総合研究所 ICT・メディアコンサルティング部 主任コンサルタント <b>スピーカー</b> 丸田 哲也 / 株式会社野村総合研究所 社会システムコンサルティング部 上級コンサルタント 本田 謙 / フリーアウト 代表取締役社長	<b>LBJ-06</b> <b>IMES:衛星測位による屋内測位技術</b> <small>16:30</small>   <small>18:00</small> <b> Chair</b> 神武 直彦 / 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 <b>スピーカー</b> 小暮 聡 / 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙利用ミッション本部衛星利用推進センター ミッションマネージャ 石井 真 / 測位衛星技術株式会社 取締役 寺西 孝一郎 / ソニー株式会社 半導体事業本部 アナログLSI事業部 コミュニケーションLSI製品システム設計マネージャー 藍原 雅一 / 自治医科大学 地域医療学センター地域医療情報学部門 講師	<b>LBJ-09</b> <b>本格化するWi-Fiベースの 屋内ロケーションサービスビジネス</b> <small>14:40</small>   <small>16:10</small> <b> Chair</b> 砂原 秀樹 / 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授 <b>スピーカー</b> 木下 泰三 / 株式会社日立製作所 情報・通信システム社 ワイヤレスインフォ統括本部 統括本部長 那須 俊宗 / マルティスラブ株式会社 代表取締役 塩野崎 敦 / クワジット株式会社 取締役CTO

(敬称略)

※本ガイドに記載の情報は2012年5月25日現在のものであり、内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

## LBJ-02

6月13日(水) 14:40~16:10

### ロケーションビジネス基盤としての 位置情報表現と標準化

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> 坂下 哲也	一般財団法人 日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) 電子情報利活用推進部 次長
<b>Speakers</b> 高橋 陽一	インディゴ株式会社 シームレス空間基盤研究開発センター センター長
足達 嘉信	セコム I S 研究所 ビルディングテクノロジーグループ 主務研究員

**概要** Overview

東日本大震災では、阪神淡路大震災当時くらべて、地図データそのものに関する課題は見られませんでした。一方で、避難所の位置情報が機械判読可能な状態で提供されていないことなど、位置コンテンツに関する課題が顕在化しました。欧米でも、LOD (Linked Open Data) など機械判読可能な形で情報を提供し、それらを融合することで、あらたな付加価値を創造しようとする動きが顕著になってきています。測位についても、わが国独自の準天頂衛星システムの整備や屋内測位方式の多様化など、その標準化はサービス推進の上で課題になってきています。最近では屋内空間サービスの隆盛に伴い、それらの標準化にむけた活動が活発化してきています。このセッションでは、『位置情報を取り巻く様々な標準化の動向』を紹介し、『我が国サービスの事業展開の方向性』について議論します。

## LBJ-01

6月13日(水) 12:50~14:20

### ロケーションビジネスにおける プライバシーの考え方

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> 坂下 哲也	一般財団法人 日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) 電子情報利活用推進部 次長
<b>Speakers</b> 高崎 晴夫	株式会社KDDI総研 取締役
クロサカ タツヤ	株式会社 代表取締役

**概要** Overview

モバイル機器へのGPS標準搭載が進み、チェックインなど位置情報を発信するコストが大幅に低下しました。それにともなって、ユーザの位置情報を利用したLBSも増加しています。一方、スマートフォンなど常に位置情報を発信するデバイスの登場によって、プライバシーに配慮した取扱いが求められています。ビッグデータの時代をむかえ、国際的にも、OECDでは集積データの中の価値が見直され、パーソナル情報の経済価値などの検討が始まり、EUではデータ保護規制が、米国でもプライバシー権利章典などが発表されるなど、制度的な枠組みにも変化が見られるようになりました。このセッションでは、『パーソナル情報を中心とした国際的な制度的枠組み』と、『利用の在り方』について、事例を交えつつ紹介するとともに、利用と保護の両側面から今後のあるべき姿について考察します。

## SDJ-05

6月15日(金) 12:50~14:20

### スマートデバイスを活かす 近距離無線通信の現状

Near Field Communication and Related Technologies  
That Empower Smart Devices

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> 丹 康雄	北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授
<b>Speakers</b> 岩崎 潤	ソニー株式会社 事業戦略部門 T推進室 企画推進担当部長
山本 秀哉	NFC Forum Board Director
	日本電気株式会社 パーソナルソリューション事業開発本部 マネージャ

**概要** Overview

数cmといった、ごく近距離にある機器間のみで通信が可能となる近距離無線通信技術は、すでに日本国内ではSuicaやお財布ケータイといった形で広く利用されていますが、近年のスマートホン、タブレット端末などのスマートデバイスの普及とともに、再び大きく注目を集めつつあります。とくに、Android 2.3以降でのNFC(Near Field Communication)のサポートや、NFCの搭載で複数の非接触規格を一台で扱うことのできるリーダライタの出現は、新たな展開を予想させます。また一方で、数百Mbpsに及ぶ高速な通信を実現し、画像データなどのやりとりをスムーズに行えるような近距離無線通信技術も実用化されています。本セッションでは、他の無線通信技術との比較における近距離無線通信の位置づけなど、概要を述べた後、高速転送を実現するTransferJetの概要と現状、さらに、NFC Forumにおける活動状況について解説します。

## SDJ-06

6月15日(金) 14:40~16:10

### スマートフォンのセキュリティ ~利用と管理の立場から~

Smartphone Security - Guides for Use and Management -

講師	Speaker
<b>Speaker</b> 竹森 敬祐	株式会社KDDI研究所 ネットワークセキュリティグループ

**概要** Overview

スマートフォンとは、PCわけ汎用OSの上に、利便性の高いアプリケーションを実行させるための豊富なAPIが揃った携帯端末です。誰もが安心して利用できるように、さまざまな安全機構を備えており、通常の利用シーンにおいてはマルウェア感染などのセキュリティ事故は生じません。しかし、「連絡先や位置情報を勝手に抜き取り、請求書に記載して高額な振り込みを強要する詐欺」や、「シャッター音を消すカメラによる盗撮」など、特有の犯罪も発生しています。不安を煽る記事や誤った認識が拡がる中で、購入を躊躇する個人や法人は少なくなく、正しい知識に基づく利用を心掛けることが重要です。本講演では、スマートフォンとPCの違いを知り、そのセキュリティ機構を正しく理解した上で、事故に遭遇しないための利用時の注意点について整理します。また、業務の効率化のために法人への導入を検討するシステム部門向けに、スマートフォンを安全に管理するための注意点についても整理します。これにより、安心して利活用いただくための普及・啓発に繋がることを期待します。

## SDJ-03

6月14日(木) 16:30~18:00

### IoT、M2Mを実現するユビキタスID技術

Ubiquitous ID Technologies for IoT and M2M

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> 越塚 登	東京大学大学院情報学環 教授
<b>Speakers</b> 湧田 雄基	東京大学大学院情報学環 特任助教
峯岸 康史	YRPユビキタス・ネットワーク研究部 ユビキタス事業室 部長

**概要** Overview

近年、Internet of things (IoT)、Machine to machine (M2M) 通信技術、また中国では物聯網、感知中国といった、いわゆるUbiquitous Computing、Ubiquitous Network技術の新たな展開が盛んに行なわれています。これらの取組みでは、実世界と計算機上の仮想世界とを有機的に結合させることで、新しい情報通信サービスを確立することが志向されています。そこで本セッションでは、我が国を中心に取り組みられてきたユビキタスID技術を中核とした、IoT、M2Mといった分野へのアプローチを紹介し、その実現に不可欠である新しい情報社会基盤にありかたや、標準化に関しても言及します。

## SDJ-04

6月15日(金) 10:20~11:50

### 無線LAN最新技術動向： ギガビット無線LANとSP Wi-Fiオフロード

Wireless LAN Recent Technology Trend:  
Gigabit Wireless LAN & SP Wi-Fi Offload

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b> 今井 俊宏	シスコシステムズ合同会社 テクノロジー&リサーチセンター シニアマネージャー
<b>Speakers</b> 小林 佳和	NEC 企業ネットワーク開発本部 シニアエキスパート
人見 高史	シスコシステムズ合同会社 AP CTO オフィス JPN シニアマネージャー

**概要** Overview

2011年の末あたりから、IEEE802.11ac/adに準拠した無線LANチップが各社から発表され、超高速無線LANの実用化がいよいよ間近に迫ってきました。ギガビットを超えるデータ伝送速度があれば、無線LANの通信速度がボトルネックになることはなく、高画質映像などの大容量のデータでも、僅かな時間でやり取りができるようになります。たとえばスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末では、この超高速化による利便性の向上が、大きく期待できます。一方、モバイル端末からのデータトラフィックが携帯通信網を圧迫し続けていることから、携帯通信事業者は、公衆無線LANサービスの展開に力を入れています。すなわち、一部のトラフィックを無線LANホットスポットにオフロードさせ、負荷を回避するためです。その際にベースとなる技術としては、Wi-Fi Allianceが取組んでいるHot Spot 2.0や、3GPPで検討が進むLTE時代を見据えたオフロード手法などが挙げられています。そこで本セッションでは、IEEE802.11およびWi-Fi Allianceで議論が進む無線LANの最新技術動向を整理するとともに、ギガビット無線LAN技術とSP (サービスプロバイダ) によるWi-Fiオフロードに焦点をあて、今後のネットワーク設計や運用に役立つ情報を提供します。

スマートデバイス企業活動への期待、  
次のビジネスを広げるモバイル・ワイヤレス最新技術紹介まで。

6月14日(木)	
<b>SDJ-01</b>	<b>スマートデバイス企業内徹底活用術</b>
<b>12:50</b> ↓ <b>14:20</b>	<b>チェア</b> 砂原 秀樹 / 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授 <b>スピーカー</b> 中山 五輪男 / ソフトバンクモバイル株式会社 ビジネス推進統括部 シニアエヴァンジェリスト 原田 圭悟 / KDDI株式会社 スマートソリューション部 スマートソリューション部長

6月15日(金)	
<b>SDJ-02</b>	<b>モバイルデバイス管理(MDM)最新技術動向</b>
<b>14:40</b> ↓ <b>16:10</b>	<b>チェア</b> 山口 英 / 奈良先端科学技術大学院大学 教授 <b>スピーカー</b> 柳下 幹生 / MobileIron, Inc. 販売担当副社長, APJ 北村 裕司 / サイバートラスト株式会社 最高技術責任者 関 徳男 / NEC クラウドデバイス事業部 エキスパート 平居 透 / クオリティソフト株式会社 取締役CTO

<b>SDJ-03</b>	<b>IoT、M2Mを実現するユビキタスID技術</b>
<b>16:30</b> ↓ <b>18:00</b>	<b>チェア</b> 越塚 登 / 東京大学大学院情報学環 教授 <b>スピーカー</b> 湯田 雄基 / 東京大学大学院情報学環 特任助教 峯岸 康史 / YRPユビキタス・ネットワークング研究所 ユビキタス事業室 部長

<b>SDJ-04</b>	<b>無線LAN最新技術動向： ギガビット無線LANとSP Wi-Fiオフロード</b>
<b>10:20</b> ↓ <b>11:50</b>	<b>チェア</b> 今井 俊宏 / シスコシステムズ合同会社 テクノロジー&リサーチセンター シニアマネージャー <b>スピーカー</b> 小林 佳和 / NEC 企業ネットワーク開発本部 シニアエキスパート 人見 高史 / シスコシステムズ合同会社 AP CTOオフィスJPN シニアマネージャー

<b>SDJ-05</b>	<b>スマートデバイスを活かす近距離無線通信の現状</b>
<b>12:50</b> ↓ <b>14:20</b>	<b>チェア</b> 丹 康雄 / 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授 <b>スピーカー</b> 岩崎 潤 / ソニー株式会社 事業戦略部門 TJ推進室 企画推進担当部長 山本 秀哉 / NFC Forum Board Director 日本電気株式会社 パーソナルソリューション事業開発本部 マネージャ

<b>SDJ-06</b>	<b>スマートフォンのセキュリティ ～利用と管理の立場から～</b>
<b>14:40</b> ↓ <b>16:10</b>	<b>スピーカー</b> 竹森 敬祐 / 株式会社KDDI研究所 ネットワークセキュリティグループ

(敬称略)

※本ガイドに記載の情報は2012年5月25日現在のものであり、内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

## SDJ-02

6月14日(金) 14:40~16:10

### モバイルデバイス管理(MDM)最新技術動向

The Trend of Mobile Divide Management  
with Top MDM Vendors in the World

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>山口 英</b> 奈良先端科学技術大学院大学 教授
<b>Speakers</b>	<b>柳下 幹生</b> MobileIron, Inc. 販売担当副社長, APJ <b>北村 裕司</b> サイバートラスト株式会社 最高技術責任者 <b>関 徳男</b> NEC クラウドデバイス事業部 エキスパート <b>平居 透</b> クオリティソフト株式会社 取締役CTO

概要	Overview
----	----------

スマートデバイスを業務で活用する企業が増加しており、ビジネスにおけるiPhone・iPad、Androidデバイスの活用(社員への配布、個人所有 デバイスの有効活用など)は、「業務効率の改善」「顧客満足度の向上」「売上の拡大」「ワークスタイルの変革」などに大いに有効な手段となっています。しかしながら、「紛失・盗難などの情報漏洩リスクの管理」「アプリケーションの利用制限」「アクセス制限」「カメラなどの機能制限」など、システム管理者にとっては悩みが多く、スマートデバイスをビジネスで安全に活用するためには、利便性を確保しつつセキュリティを保つ対策が不可欠となります。本セッションでは、業界をリードするMDM(モバイルデバイス管理)ベンダーにより、スマートデバイスの活用に伴うセキュリティ対策で必須と考えられるMDMの最新技術動向について、「安全な通信環境の実現」「利用者や利用端末の識別」「モバイルデバイスの管理機能」などのさまざまな切り口から、今後のネットワークシステム設計や運用に役立つ情報を提供します。

## SDJ-01

6月14日(木) 12:50~14:20

### スマートデバイス企業内徹底活用術

Benefits of Enterprise Use of Smart Devices

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>砂原 秀樹</b> 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授
<b>Speakers</b>	<b>中山 五輪男</b> ソフトバンクモバイル株式会社 ビジネス推進統括部 シニアエヴァンジェリスト <b>原田 圭悟</b> KDDI株式会社 スマートソリューション部 スマートソリューション部長

概要	Overview
----	----------

企業におけるスマートデバイスの導入が、さまざまな業種業態で加速しています。たとえば内線電話・メール・グループウェアといった基本的な「コミュニケーションツール」としての役割から始まって、訪問・店舗での商品検索・プレゼンといった「営業支援」、在庫・進捗管理などの「業務システム」、あるいは「教育・トレーニング」として用いられている例もあります。実際これらの導入後の企業においては、ワークスタイルの改善が図られ、売上げの向上や業務の改善が実現できています。いまやスマートデバイスは、企業の成長のための大きなファクターとして欠かせないものとなってきています。そこで本セッションでは、企業において業務改革を推進している方の参考となるよう、効果の高いスマートデバイスの導入実事例について詳しく紹介します。

## DSJ-09

6月15日(金) 14:40~16:10

### 明日のデジタルサイネージ ロケーション、o2oの可能性

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>川村 行治</b> 株式会社インセクトマイクロエージェンシー
<b>Speakers</b>	<b>跡部 徹</b> 株式会社空気読み 代表取締役 <b>小磯 敦</b> 楽天株式会社 編成部 副部長 <b>長津 孝輔</b> 株式会社カドベヤ 取締役

概要	Overview
----	----------

デジタルサイネージは動く看板として活用される以外に何が考えられるのでしょうか。街とのつながり、個人との関係、新しいコマスの形や連携。地域とのつながり。web業界を中心に活躍している論客が、webやアプリケーション業界で起こっているムーブメントを踏まえ、フォーマットされた固定概念を融かす 様々な視点で明日のサイネージ活用を議論をします。

## DSJ-07

6月15日(金) 10:20~11:50

### デジタルサイネージクリエイティブの 今とこれから

～効果的広告事例 20 連続！ 著名クリエイターが斬る～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>吉田 勝広</b> 株式会社オリコム メディア本部 メディア推進室 室長
<b>Speakers</b>	<b>大岩 直人</b> 株式会社電通 コミュニケーション・デザイン・センター シニア・クリエイティブ・ディレクター <b>須田 和博</b> 株式会社博報堂 エンゲージメントビジネスユニット エンゲージメントクリエイティブ局 クリエイティブディレクター <b>高野 文隆</b> 株式会社アサツディ・ケイ コミュニケーション・アーキテクト局 クリエイティブ・ディレクター/コミュニケーション・アーキテクト

概要	Overview
----	----------

従来テレビやPCなど主に画面は横と決まっていた世界から、昨今、駅構内などで設置されている大画面サイネージなどはタテ型が主流になりつつあります。また、サイネージの設置条件によっては、ある程度の時間視聴が期待できるものや、歩行者導線上にあるもののように動いている人を対象にしたものなども存在しています。このような背景をベースに本セッションでは、現在のパッケージメディアにおける状況や今後のクリエイティブのあり方について気鋭のクリエイターの方々と考察します。

## デジタルサイネージ ジャパン 2012 実行委員会

### 実行委員長

**中村 伊知哉** 慶應義塾大学 / 融合研究所

### 実行委員

<b>阿良田 剛</b>	三菱電機株式会社
<b>西田 豊</b>	パナソニックシステムネットワークス株式会社
<b>川添 雄彦</b>	日本電信電話株式会社
<b>伊能 美和子</b>	日本電信電話株式会社
<b>江口 靖二</b>	デジタルメディアコンサルタント
<b>岩田 天植</b>	博報堂DYメディアパートナーズ株式会社
<b>小野打 恵</b>	株式会社ヒューマンメディア
<b>尾崎 常道</b>	株式会社ネクストウェブ
<b>吉田 勝広</b>	株式会社オリコム
<b>引場 純一</b>	株式会社スペースシャワーネットワーク
<b>中村 秀治</b>	株式会社三菱総合研究所
<b>廣田 洋一</b>	インテル株式会社
<b>中野 雅之</b>	株式会社電通
<b>岳中 純郎</b>	株式会社ニュースペース・コム
<b>多田 周平</b>	株式会社ニューフォリア
<b>石戸 奈々子</b>	デジタルサイネージコンソーシアム

## DSJ-08

6月15日(水) 12:50~14:20

### サイネージクリエイティブには新しい血が必要

～モーショングラフィックスとサウンドクリエーション～

講師	Chair / Speakers
<b>Chair</b>	<b>江口 靖二</b> デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事
<b>Speakers</b>	<b>大森 聖</b> TO-FU <b>山口 哲一</b> 株式会社バグコーポレーション 代表取締役

概要	Overview
----	----------

そのサイネージ、やっぱり誰も見てないでしょ。だってインパクト無いし。気がつかないし。そもそも誰もサイネージ見ようと思って街歩いてないし。このセッションではモーショングラフィックスというシンプルな文字や図形を効果的に動かすことで視認性を高め、インパクトある表現方法と、サイネージでは見落とされがちなサウンド、音楽といった異なる2つの視点に注目しながら、それぞれの側から見たデジタルサイネージのダメなところと、大いなる可能性についてを議論します。独りよがりなコンテンツクリエイティブからの脱却です。

## DSJ-05

6月14日(木) 14:40~16:10

デジタルサイネージにおけるアカウントビリティ  
～デジタルサイネージの媒体効果をどう説明するか～

講師	Chair / Speakers
Chair	吉田 勝広 株式会社オリコム メディア本部 メディア推進室 室長
Speakers	山本 孝 株式会社ジェイアール東日本企画 交通媒体本部 媒体開発部 部長 中野 雅之 株式会社電通 アウト・オブ・ホーム・メディア局 業務開発部 プロジェクト・マネージャー 野原 久男 株式会社ビデオリサーチ 調査業務局局長

概要	Overview
<p>デジタルサイネージは、能動的にせよ受動的にせよ人々に見られなければならないものです。そうでないと効果が見込めないし、媒体として生き残れません。媒体効果について、おそらく一番要求が厳しいのは広告主様ではないでしょうか。存在感が増しているデジタルサイネージについても、広告会社や媒体社は、広告主様に対して広告効果の説明責任（アカウントビリティー・Accountability）を求められています。デジタルサイネージの広告効果をどう説明しているのか。調査データはどういうものがあり、統一的な効果指標はあるのか。より効果的な媒体作りはどう行なっていくのか。デジタルサイネージの広告ビジネスで、広告売上进行を拡大させている広告会社、媒体社、それに調査会社、それぞれのプロフェッショナルによるパネルディスカッションで、明らかにしていきます。</p>	

## DSJ-06

6月14日(金) 16:30~18:00

## ワークスペースサイネージ・N E X T

～オフィスサイネージの最新トレンドから実導入現場まで検証～

講師	Chair/ Speakers
Chair	喜多村 真 富士フィルムイメージングシステムズ株式会社 事業開発室
Speakers	福永 泰男 サイバーステーション株式会社 代表取締役社長 粕谷 貴司 株式会社 竹中工務店 ワークプレイスプロデュース本部 ITソリューショングループ

概要	Overview
<p>急速な情報化への対応が求められるオフィス、工場生産現。作業状況や情報共有などの可視化手段として、ワークプレイスにおけるデジタルサイネージの利用が進んでいます。様々な問題解決をデジタルサイネージで行う最新鋭の事例を紹介。導入の経緯、計画、設置、運用から費用対効果の考え方まで実導入に関わる方々との見識を共有し、オフィスサイネージのトレンド・考え方・未来まで掘り下げていきます。</p>	

## DSJ-03

6月13日(水) 16:30~18:00

統合コミュニケーションデザインと  
デジタルサイネージ

講師	Speaker
Speaker	柳 貴男 株式会社博報堂D Yメディアパートナーズ 関西支社 メディアソリューション局 統合コミュニケーションプランニング部 シニアメディアプランニングディレクター、テクニカルメディアプロデューサー

概要	Overview
<p>インターネットの普及からソーシャルメディア、スマートデバイスの出現により、メディア環境は大きく変化した。それにともなってコミュニケーションデザインの手法もさまざまな変化を遂げ、コミュニケーションツールとしてデジタルサイネージも重要な役割を担っている。今回は、そうした時代の変化を踏まえて実施した既存デジタルサイネージを活用したコミュニケーション事例からオリジナルデジタルサイネージをプロデュースしたもので、デジタルサイネー ジを活用した統合コミュニケーションデザインの事例を紹介しながらこれからの時代のコミュニケーションにおけるデジタルサイネージの役割を考えていく。</p>	

## DSJ-04

6月14日(木) 12:50~14:20

## 新・東京サイネージ百景

～デジタルメディア、ソーシャルメディア激変の渦中における  
東京最新事例から考えるデジタルサイネージの行く末は如何に？～

講師	Chair / Speakers
Chair	江口 靖二 デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事
Speakers	菅原 淳之 ピーディーシー株式会社 代表取締役 山本 孝 株式会社ジェイアール東日本企画 交通媒体本部 媒体開発部 部長 佃 直幸 シャープ株式会社 国内営業本部 ディスプレイシステム営業部 システム設計グループ 主事 大坂 智之 NEC テレコム・コンテンツソリューション事業部 シニアエキスパート

概要	Overview
<p>いまや世界でも有数のサイネージ都市である東京。東京スカイツリー、ソフトバンクショップ、ユニクロ銀座などなど、2012年に新たに出現した東京のデジタルサイネージは規模も技術も素晴らしい。しかし、こうした技術はデジタルサイネージだけに恩恵をもたらしているわけでは決してなく、WEB、ソーシャルメディアはもちろん、放送までもこの変革にさらされている。今後、無線系を中心にネットワークはますます使いやすくなり、加えてHTML 5 がもたらすインパクトは計り知れない。デジタル化によってハードウェアに差異がなくなり、テレビセットメーカーが苦境に立たされているのは周知のとおりだ。ではデジタルサイネージはどうだろう。2012年に続々導入されたサイネージは、何のために設置され、どういうメリットをだれに提供できているのか。それは機器の優劣を超えた競争のスタートである。本セッションでは、こうした東京の最新のサイネージ事例を紹介つつ、都市空間、都市生活におけるデジタルサイネージのあり方についてパネリストと議論してみたい。</p>	

## DSJ2012

Digital Signage Japan  
デジタルサイネージ ジャパン

## ROOM 201A

P30 参照

6月13日(水)	6月14日(木)	6月15日(金)
<b>DSJ-01</b> 12:50 ↓ 14:20	<b>DSJ-04</b> 12:50 ↓ 14:20	<b>DSJ-07</b> 10:20 ↓ 11:50
<b>HTML5が与えるマルチスクリーンメディアへのインパクト</b> ～デジタルメディア、ソーシャルメディア激変の渦中における 東京最新事例から考えるデジタルサイネージの行く末は如何に？～ <b> Chair</b> 江口 靖二/日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 主幹研究員 工学博士 <b>スピーカー</b> 井原 雅行/日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 主幹研究員 工学博士 瀬古 俊一/日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 研究員 榎堀 武/株式会社日立製作所 都市開発システム社 ソリューション事業部 ビルソリューション本部 メディアサービス部 部長代理	<b>新・東京サイネージ百景</b> ～デジタルメディア、ソーシャルメディア激変の渦中における 東京最新事例から考えるデジタルサイネージの行く末は如何に？～ <b> Chair</b> 江口 靖二/デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事 <b>スピーカー</b> 出原 淳之/ピーディーシー株式会社 代表取締役 山本 孝/株式会社ジェイアール東日本企画 交通媒体本部 媒体開発部 部長 佃 直幸/シャープ株式会社 国内営業本部 ディスプレイシステム営業部 システム設計グループ 主事 大坂 智之/NEC テレコム・コンテンツソリューション事業部 シニアエキスパート	<b>デジタルサイネージクリエティブの今とこれから</b> ～効果的広告事例20選発! 著名クリエイターが斬る～ <b> Chair</b> 吉田 勝広/株式会社オリコム メディア本部 メディア推進室 室長 <b>スピーカー</b> 大岩 徹人/株式会社電通 コミュニケーション・デザイン・センター シニアクリエイティブディレクター 須田 和博/株式会社博報堂 エンゲージメントビジネスユニット エンゲージメントクリエイティブ局 クリエイティブディレクター 高野 文隆/株式会社アサラー ディ・ケイ コミュニケーション・マーケティング クリエイティブディレクター/コミュニケーション・アーティスト
<b>DSJ-02</b> 14:40 ↓ 16:10	<b>DSJ-05</b> 14:40 ↓ 16:10	<b>DSJ-08</b> 12:50 ↓ 14:20
<b>これが地域型マルチスクリーンとアプリ連携の決定打</b> ～地域で小さく確実に回せる、長野県佐久市エリアでの新事業～ <b> Chair</b> 江口 靖二/デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事 <b>スピーカー</b> 吉田 達矢/さくりすITサポート事業組合 会長/株式会社 伊藤 浩一/さくりすITサポート事業組合 代表取締役 半田 かつ江/久米町田町商店街振興組合Web担当理事IT推進担当 小林 尚美/さくりすITサポート事業組合 佐久、小諸、軽井沢地域ブログポータルサイト あさま日和 工藤 美幸/長野県佐久市 市津 商店/株式会社ロケッコ 取締役 濱中 慎一/NTTアイティ株式会社 サイネージ事業部 草水 美子/株式会社QOLP 代表取締役	<b>デジタルサイネージにおけるアカウントビリティ</b> ～デジタルサイネージの媒体効果をどう説明するか～ <b> Chair</b> 吉田 勝広/株式会社オリコム メディア本部 メディア推進室 室長 <b>スピーカー</b> 山本 孝/株式会社ジェイアール東日本企画 交通媒体本部 媒体開発部 部長 中野 雅之/株式会社電通 アウト・オブ・ホーム・メディア局 業務開発部 プロジェクト・マネージャー 野原 久男/株式会社ビデオリサーチ 調査業務局局長	<b>サイネージクリエティブには新しい血が必要</b> ～モーショングラフィックスとサウンドクリエーション～ <b> Chair</b> 江口 靖二/デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事 <b>スピーカー</b> 大森 聖/TO-FU 山口 哲一/株式会社バグコーポレーション 代表取締役
<b>DSJ-03</b> 16:30 ↓ 18:00	<b>DSJ-06</b> 16:30 ↓ 18:00	<b>DSJ-09</b> 14:40 ↓ 16:10
<b>統合コミュニケーションデザインとデジタルサイネージ</b> <b> Chair</b> 柳 貴男/株式会社博報堂D Yメディアパートナーズ 関西支社 メディアソリューション局 統合コミュニケーションプランニング部 シニアメディアプランニングディレクター、テクニカルメディアプロデューサー	<b>ワークスペースサイネージ・N E X T</b> ～オフィスサイネージの最新トレンドから実導入現場まで検証～ <b> Chair</b> 喜多村 真/富士フィルムイメージングシステムズ株式会社 事業開発室 <b>スピーカー</b> 福永 泰男/サイバーステーション株式会社 代表取締役社長 粕谷 貴司/株式会社 竹中工務店 ワークプレイスプロデュース本部 ITソリューショングループ	<b>明日のデジタルサイネージ</b> ロケーション、o2oの可能性 <b> Chair</b> 川村 行治/株式会社インセクトマイクロエージェンシー <b>スピーカー</b> 小嶋 敦/株式会社 宇野 誠彦 取締役 部長 長澤 孝輔/株式会社カドバヤ 取締役

(敬称略)

※本ガイドに記載の情報は2012年5月25日現在のものであり、内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

## DSJ-02

6月13日(水) 14:40~16:10

これが地域型マルチスクリーンとアプリ連携の決定打  
～地域で小さく確実に回せる、長野県佐久市エリアでの新事業～

講師	Chair / Speakers
Chair	江口 靖二 デジタルメディアコンサルタント デジタルサイネージコンソーシアム常務理事
Speakers	吉田 達矢 さくりすITサポート事業組合 合同会社吉揮 コミュニケーションプランナー 半田 かつ江 さくりすITサポート事業組合 じでたる屋フォト&デザインスタジオ 佐久岩村田商店街振興組合Web担当理事IT推進担当 小林 尚美 さくりすITサポート事業組合 佐久、小諸、軽井沢地域ブログポータルサイト あさま日和 長野県佐久市 株式会社ロケッコ 取締役 工藤 美幸 NTTアイティ株式会社 サイネージ事業部 濱中 慎一 株式会社QOLP 代表取締役

概要	Overview
<p>長野県佐久市で6月にスタートするマルチスクリーンをフルに生かした新事業が「あさまチャンネル」である。これは地元商店街とイオン、地域ポータルサイト、行政、位置情報サービスなどとの連携で、パソコン、スマートフォン、タブレット、デジタルサイネージをロケーションや状況に応じて利用しながら地元商店街と住民、行政が相互に利用するための新事業体である。そもそもの取り組みの出発点は、デジタルサイネージでもマルチスクリーンでもない、2011年に内閣総理大臣賞を受賞した佐久市の岩村田本町商店街における地域活性化の取り組みがスタートである。この商店街では独自に複数の事業を立ち上げたり、地元のイオンとの地域WAONカードや商品仕入れの共通化などの画期的に取り組みを行って来たところだ。こうした地域活性化に対して積極的でかつ実績がある街で、地元に着したデジタルサービスを提供している個人商店と、すでに地域では非常に有名な地域ポータルサイトが、その情報流通をWEBだけではなくスマートフォン、タブレット、デジタルサイネージにも拡大していくものである。位置情報サービスも組み合わせることで、当エリアで今最も課題である地域回遊性の確保も実現させる。入れ物だけを無理やり助成金を使って構築して、まったく利用されない事例が後を絶たない中、ここでは地元の熱意ある人々が集まり、驚くほど金をかけずとも商店や住民に役立つサービスを目標している。この事例は日本全国に應用可能であり、そのための参考になるセッションである。</p>	

## コンファレンスプログラムガイド

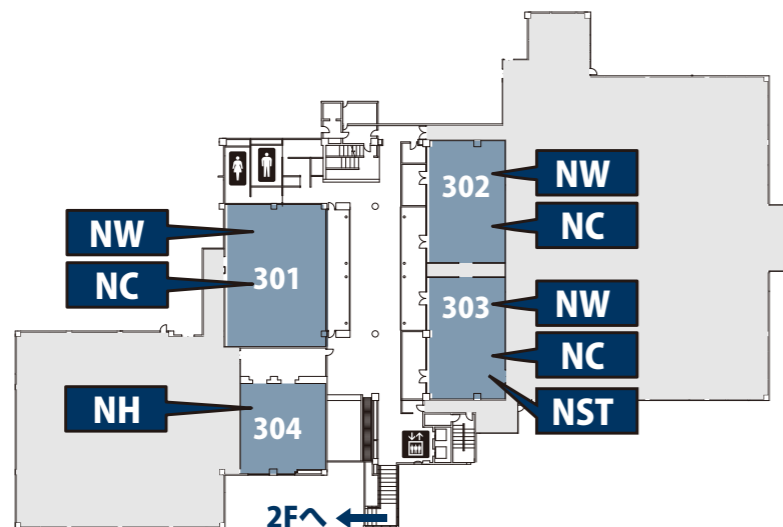
最新事例、クリエイティブ、アプリ連携など  
サイネージビジネス次へのヒントを探る充実のプログラム

講師	Chair / Speakers
Chair	羽田野 太巳 株式会社ニューフォリア 最高技術責任者
Speakers	井原 雅行 日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 主幹研究員 工学博士 瀬古 俊一 日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 研究員 株式会社日立製作所 都市開発システム社 ソリューション事業部 ビルソリューション本部 メディアサービス部 部長代理

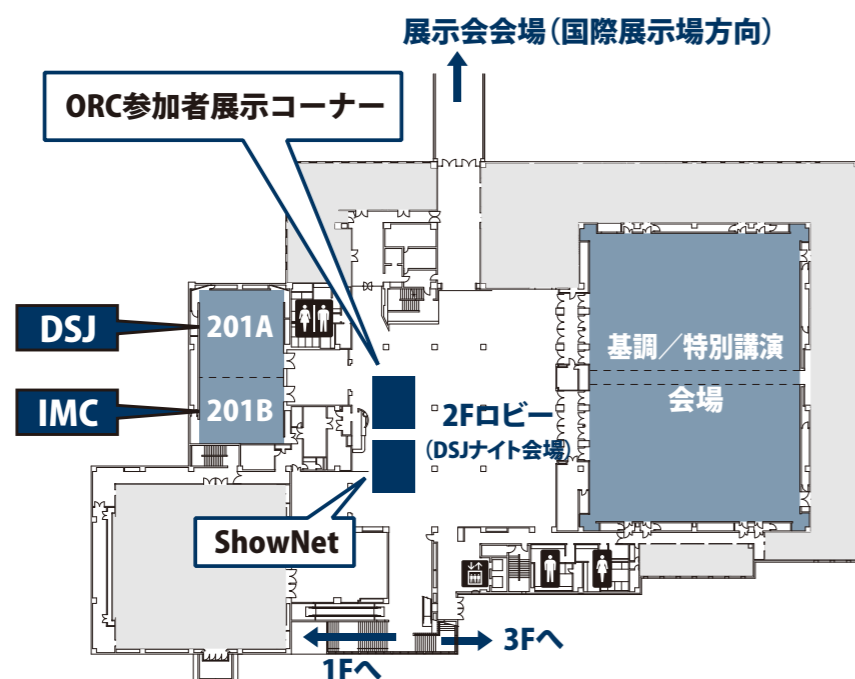
概要	Overview
<p>ウェブ技術であるHTML5は、さまざまな業界において利用が検討され始めていますが、デジタルサイネージも例外ではありません。本セッションでは、ウェブ技術者、研究開発者、デジタルサイネージに直接かかわるメーカーという三者三様の立場から、デジタルサイネージとHTML5をはじめとしたウェブ技術の融合の可能性を語ります。そして、HTML5をはじめとしたウェブ技術は、現在のデジタルサイネージの課題を解決できるのか、そして、将来への期待についてパネルディスカッションします。</p>	

講師	Chair / Speakers
Chair	羽田野 太巳 株式会社ニューフォリア 最高技術責任者
Speakers	井原 雅行 日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 主幹研究員 工学博士 瀬古 俊一 日本電信電話株式会社 NTTサイバーソリューション研究所 ヒューマンアプライアンスプロジェクト 研究員 株式会社日立製作所 都市開発システム社 ソリューション事業部 ビルソリューション本部 メディアサービス部 部長代理

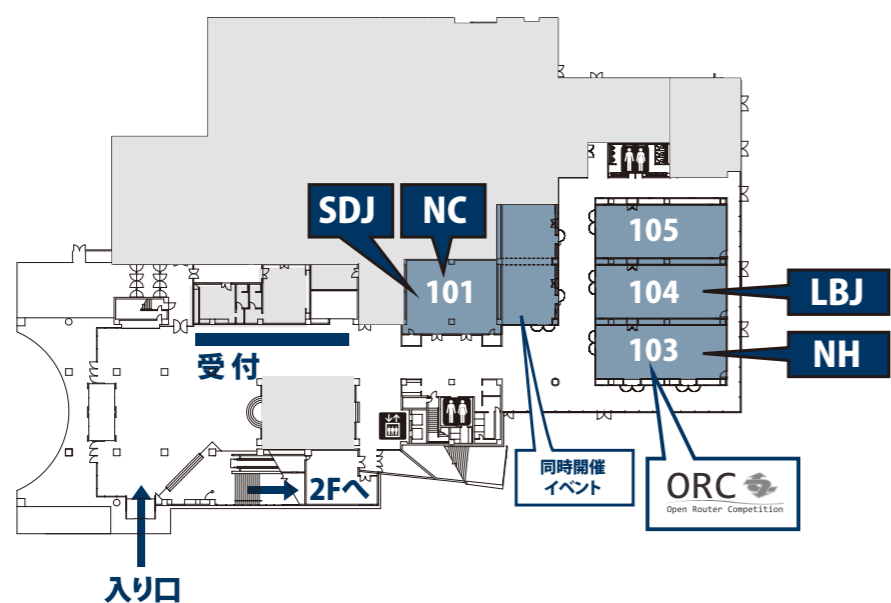
■3F



■2F



■1F



有料コンファレンス参加料金 (税込)

※下記は、Interop Tokyo、IMC Tokyo、デジタルサイネージジャパン、スマートデバイス ジャパン、ロケーションビジネス ジャパン共通の料金表となります。

お申込パッケージ		記号	当日価格
ワークショップ(1日間コース)		NW	¥45,000
ハンズオン(1日間コース)		NH	¥65,000
コンファレンス	1日間 ※1日の間NC、IMC、DSJ、LBJ、SDJを1セッション以上	NC	¥40,000
		IMC	
		DSJ	
	3日間 ※3日の間NC、IMC、DSJ、LBJ、SDJを各日1セッション以上	LBJ	¥80,000
	SDJ		
ShowNetテクニカルツアー&セッション ※NSTを1つ(NST-01とNST-02は同じ内容です)		NST	¥10,000
スペシャルパッケージ ※各セッションの組み合わせでさらにお得です！			当日価格
フルコンファレンスパッケージ (いずれのセッションも登録可能)			¥140,000

【ご注意】

上記お申込項目および各種パッケージ料金は、同一の方のご利用を前提としています。

同一時間帯のセッションを受講することはできません。

1枚の受講証内に受講セッションを全て記載してお渡しする形となり、複数名で分割してのご利用は出来ませんので予めご了承ください。会場にてご本人確認を行わせていただく場合がございますのでご了承ください。

お問い合わせ先

■登録事務局(各展共通)

・コンファレンスについて  
june-conf@f2ff.jp

各イベントオフィシャルサイト

・Interop Tokyo 2012  
<http://www.interop.jp/>

・IMC Tokyo 2012  
<http://www.imctokyo.jp/>

・デジタルサイネージジャパン 2012  
<http://www.f2ff.jp/dsj/>

・スマートデバイス ジャパン 2012  
<http://www.f2ff.jp/sdj/>

・ロケーションビジネス ジャパン 2012  
<http://www.f2ff.jp/lbj/>

会場アクセス



●JR京葉線「海浜幕張駅」下車 徒歩5分 ●JR総武線「幕張本郷駅」下車 バス15分